

命について考える日（7月）

中山千夏さんが書いた「どんなかんじかなあ」という本を紹介しました。

作者の中山さんは、この本が生まれたきっかけをこう話しています。

「ある日、にこにこ、すてきな女の子に出会った。  
その女の子は、やりたい勉強があって大学をめざしてはりきっていた。電動の車いすに乗っていて、体のなかで、自分で動かすことのできるのは、指先と、目と口だけ。日に日に体がだんだん動かなくなる病気だった。治療法はいまのところない。私は、その女の子と会って、話して、いろいろなことを考えた。



障害のある友だちのこと。ない友だちのこと。自分自身のこと。みんなそれぞれ何かしらどうしようもない辛さを背負っているということ。でも生きられるということ。いっしょになら生きられるということ・・・その女の子は私にいろいろなことを考えさせてくれた。」

お話を聞いて、皆さんもいろんなことを感じたことだと思いますが、絵本の主人公であるヒロくんのように「どんなかんじかなあ」と相手の身になって想像できる、相手のことを考えられる やさしい子になってほしいです。